



庄内総合支庁農業技術普及課 (TEL 0235-64-2103)

天候に応じた水管理で初期茎数の確保を！

1. 「ワキ」が発生しやすい天候です！こまめに田んぼの状況を確認し、対策しましょう！

5月9日～15日の期間は、気温は高く（平年差+0.9℃）、日照時間は多く（平年比179%）経過しました（鶴岡アメダス）。また、仙台管区气象台の1か月予報（5月16日発表）によると、**向こう1か月の気温は高く、日照時間は平年並みか多い**見込みです。

田んぼの状況（表層剥離・藻類の発生、「ワキ」の程度）を確認し、積極的に対策を行いましょ。

2. 活着後はこまめな水管理で初期生育を確保

活着を確認したら、浅水管理（水深 2～3cm）で分げつの発生を促進するとともに、昼間止水・夜間灌漑により生育を促進しましょう。

水管理のポイント

- ① 田植後は、活着するまで水深 4～5cm 程度にして、葉身からの蒸散を抑え、新根の発生を促す
- ② 活着したら、水深 2～3cm の浅水で水温を高め、分げつ発生を促す
- ③ 均平でないほ場では、高い部分の田面が出ない程度の水深を保つ
- ④ 日中は止水してできるだけ水温を高め、入水は夜間か早朝に行う
- ⑤ 強風や低温が続くときは、水深をやや深めにして稲体を保護する
- ⑥ 除草剤を散布した後は、7 日間は止水し、落水、かけ流しはしない
- ⑦ **一発除草剤散布前に田面水の交換を行う⇒次ページ参照！**

3. 表層剥離・藻類発生に要注意

表層剥離や藻類（アオミドロ等）が発生すると、地温・水温の上昇を妨げられ、生育が遅れる原因になります。普段から浅水管理にすると発生を抑制することができます。

発生した場合は、除草剤散布後 7 日間の止水後に、**一時的に夜間落水して田面を落ち着かせる**、または、**表層剥離や藻類に効果がある除草剤を散布**するなどの対策を行いましょ。

農薬はラベルをよく読んで、適正に使用しましょう！

4. 土壌の異常還元（ワキ）対策で初期生育を確保

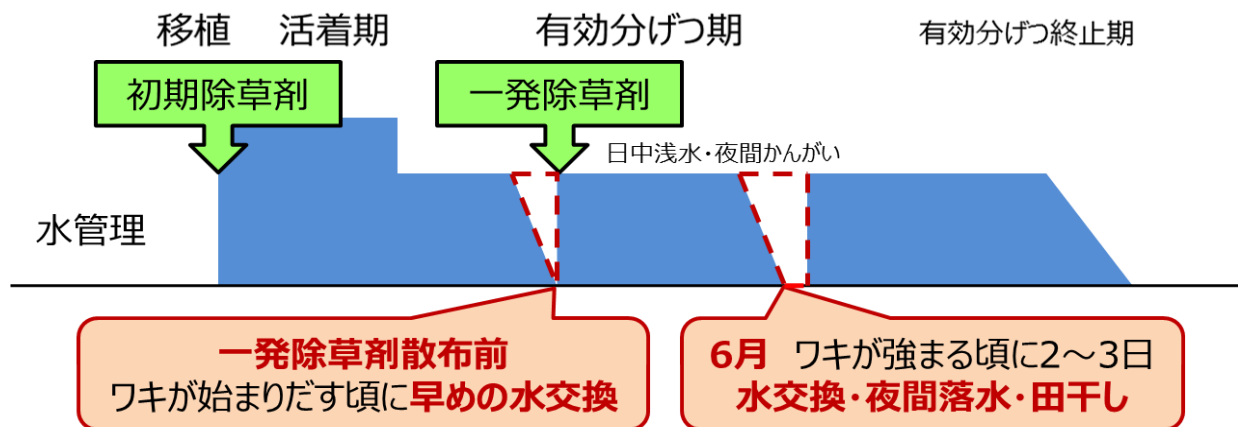
高温・日照時間の長い日が続くと、土壌の異常還元（ワキ）が発生し、根の生育が阻害され、分げつの発生が抑制されます。**特に、向こう 1 か月は「ワキ」が発生しやすい天候となる見込み**です。下記の予防・対策を積極的に行い、初期茎数を確保しましょう。

① 予防策：一発除草剤散布前の水交換

一発除草剤散布後は、7日間湛水状態を保つ必要があるため、その間に「ワキ」が進んでしまいます。予防策として、**一発除草剤散布前に水交換を行って「ワキ」の発生を遅らせ**、その後、入水して除草剤を散布しましょう。

一発除草剤散布後に7日間止水した後は、下記②を参考に、**水交換・夜間落水・2～3日程度の田干し**を実施しましょう。

※除草剤散布前の水交換は、表層剥離やアオミドロによる除草剤の拡散ムラの防止にも有効です。



② 対策：ワキの程度に応じた水管理

「ワキ」による生育への悪影響を回避するには、**稲に異常が見え始める前の“早目の対策”**が重要です。

田んぼに一步足を踏み込んで、ワキの程度（気泡の発生状況）を確認しましょう。

ワキの程度に応じて**“早めの水交換”、“夜間落水”、“2～3日程度の田干し”**を行い、根の活力を保ちましょう。

ワキの程度	生育への影響	対策	
		分げつ初・中期	分げつ盛期
水田に足を踏み込むと 気泡の発生 が多い。	根の活力低下	水交換	
水田に足を踏み込むと 盛んに気泡を発生 する。	根張り不良	夜間落水	
晴天時に自然に気泡が発生し、音がする。 水田を歩くと 著しく気泡が発生 する。	根の伸長阻害 地上部黄化	田干し (2～3日)	間断かんがい 田干し

<春季農作業事故防止運動強化期間 4/10～6/10>

☆まずはワンチェック ワンアクションで農作業安全☆

STOP！農作業事故